

作物名：トマト

病害虫名：株腐病（病原：*Rizoctonia solani*）

1 被害の特徴と診断のポイント

- 茎の地際部に発生する。
- 定植後から1段目収穫期に発生し、葉が褐変や黄化を伴うことなく、急激に株全体が萎凋し、青枯れ症状を呈する。
- 青枯れ症状が隣接株に連続して発生することがあるが、時間差で発生するために感染が拡大しているようにみえるが、発病株が伝染源となって拡大することはない。
- 茎の地際部は外側から数 mm 程度の褐変を伴って、やや細くくびれ、軟化、腐敗する。茎の褐変部は地上5cm～地下3cm 程度に達するが、土壌表面より地下部分のみに発生する場合もあるため、診断の際は、地際部周辺の土壌を除去して観察する必要がある。
- 本病は青枯れ症状よりも先に茎地際部に褐変症状がみられ、この褐変部を生物顕微鏡で観察すると、リゾクトニア属菌の菌糸が確認されることで青枯病と区別できる。



写真1 発病初期の萎凋症状

2 伝染源・伝染方法

- 土壌中に生息する本病菌が伝染源となり、土壌伝染する。
- 発病株が伝染源となって、二次伝染することはない。

3 発病しやすい条件

- 本病菌は糸状菌の一種で、担子菌類に属する。
- 比較的低温を好み、発病適温は15～20℃である。

4 防除方法

- 深植えは発病を助長するので、定植時に深植えとならないよう注意する。
- 育苗には無病培土を使用する。
- 他の土壌病害と同時に、土壌消毒を行う。

5 出典

(1) 参考文献

- 農業総覧原色病害虫防除診断編2-①（農文協）
- 植物防疫第67巻第1号:44-49.2013年（日植防）

(2) 写真

- 宮城県美里農業改良普及センター
- 宮城県病害虫防除所撮影



写真2 茎地際部の褐変を伴うくびれ



写真3 褐変組織上の菌糸

(令和5年9月改訂)